

やさしく かしこく 元気よく



松原小だより



〒365-0043 鴻巣市原馬室2425番地

TEL:048-542-8450 <https://matubara-e-konosu.edumap.jp/>

松小 HP
毎日更新中!

児童数 403名(10月31日現在)

11月号

「結果」よりも「過程」を大切にする育て方

校長 寺島 麗王馬

先日、6年生が参加した市内陸上競技大会では、多くの子どもが自己ベストを更新したり、入賞(8位以内)したり、松原小の代表として素晴らしい活躍をしてくださいました。その結果はもちろん嬉しいのですが、私は大会に臨むまでの6年生の姿が、より心に残っています。



黄色帽子の6年生は、朝、学校に来ると、すぐに校庭に出て、トラックをひたすら走っています。4月、進級したての頃から、猛暑の6~9月を経て、大会直前まで、ずっとその風景は変わりませんでした。そして、驚くことに大会が終わってからも走り続けている6年生がたくさんいて、その周りには、6年生を見て(真似して)、1~5年生の子ども達もたくさん校庭を走っています。

また、大会に向けた練習では、記録が出なくても、何度もチャレンジし続ける姿や、それを励ます仲間の姿があちこちで見られました。うまくいく、いかないではなく、「次こそ!」と、頑張る6年生を見て、私たち教員も指導や応援に熱が入る、そんな放課後の風景でした。

世の中には「コストパフォーマンス」「タイムパフォーマンス」といった効率と結果を重視する言葉があふれています。利益追求の現場では当然の考え方だと思いますし、結果に対して対価を得られる社会は、ある意味健全であると思います。

しかし、子育てや学校教育において、この考え方は当てはまるのでしょうか。「結果だけを評価される」ことを子どもは望んでいるのでしょうか。私はずっと野球小僧でしたが、「大会が近いんだから、もっと素振りしろよ」などと言うコーチが苦手でした。それより、「スイング速くなってきたな!」とその場で認めてくれるコーチに信頼感をもっていました。今になって思うのですが、とにかく「結果」を出させたくて(得てして自分のために)声をかける大人と、子どもなりに努力している「過程」を純粹に認めてくれる大人を、子どもは敏感に感じ分けるのだと思います。そんな私もつい先日、高校球児の息子に、「もっとボールを見て打ったほうがいいぞ」などと偉そうにアドバイスをしたら、「自分で考えてやったほうがいいから。うるさい」と言われてしまいました。結果を出させたくて言った、まさしくだめなパターンの声がけでした。先日、知り合いのキャリアコンサルタントが、就職や転職を考えているお客様に数多く会ってきた中で、「結果だけに価値観を置く考え方で生きてきた人ほど、挫折しやすい傾向がある」と教えてくれました。結果に向けて努力することはもちろん大切ですが、子ども達を育てる上で、将来的な目標が「社会的な自立」であるとしたとき、「過程」を認めていく大切さはよりクローズアップされてくるのではないのでしょうか。

認める・褒めるは難しい作業です。当たり前のことを褒めても動機づけにはなりませんし、「何かをやらせようとして褒めているのかな」と感じる子どもだっています。それでも毎日、会っている松原っ子たちは、その表情や態度、そして言葉で、そのヒントを私たちに与えてくれています。「ここを認めてほしい」そんなサインに気づける大人でありたいと思います。